

AI 感覚と一般アマチュア将棋 ～過去の自分の将棋をソフトで分析してみました～

江川治彦（昭和 60 年数理工学科入学）

府大将棋部 OB の皆様、ご建機でお過ごしでしょうか。

コロナ禍で今年の将棋部 OB 会も中止となってしまいました。6 月 21 日時点でとりあえず日本のコロナ旋風第一波は一段落した感じですが、海外の情勢などをみるととても安心できるという段階ではなく、当面は我慢の局面を強いられそうな形勢です。

私はこの 4 月から堺若葉会病院の病院長に就任しました。大阪メトロ御堂筋線新金岡駅近くの 180 床の地域密着型中規模病院です。この規模の病院の院長業務は、医師として先頭を切って臨床業務にあたりと同時に、一方で経営や人事に目配せすることも必要な、まさに中小企業経営者のようなプレイングマネージャーというべき存在です。そもそも医師は企業戦士のような厳しい社会的経験に乏しい職業で、経営学的な視点などというものは持ち合わせておりませんので、私にとっては何もかも初めての経験であり、毎日悪戦苦闘しております。そのようなわけで、最近では、将棋はすっかりご無沙汰状態、たまにネットで指してはポカばかりという悲しい状況に陥っています。考えてみればもう私も 55 歳、すでに指し盛りの年齢を大きく越え、この現状は必然ともいえるものではあります、やはり一抹の寂しさはぬぐえません。

最近では新しい将棋を指す、あるいは将棋を勉強しなおすという気力もなく、ときどき自分の過去の棋譜を将棋ソフトにかけて判断してもらい、ということをしています。かつて、自分が気力充実していたころの将棋を見直してかつての鋭気を取り戻したいという気持ちと、当時と現在感覚のずれを調整したいという気持ちで始めた作業ですが、やってみていろいろ感じるどころがありました。

今回はその一端をご披露します。拙い私の棋譜で恐縮ですがどうぞご鑑賞ください。

開始日時：2000/11/5

棋戦：第 24 回朝日アマ名人戦近畿ブロック大会 決勝

場所：桜ノ宮リバーサイドホテル

先手：天野 啓吾

後手：江川 治彦

*朝日アマ名人戦近畿地区決勝。この将棋が、いまのところ私が県代表レベルのクオリティで指せた最後の将棋である。このときは準々決勝で篠田正人元アマ竜王に快勝するなど比較的好調であった。相手の天野啓吾氏は当時大阪市立大の学生だったが、すでに一般棋戦で全国優勝経験もあり、その後もアマ名人を獲得するなど現在も活躍している。

▲ 7 六歩 △ 3 四歩 ▲ 4 八銀 △ 8 四歩 ▲ 6 六歩 △ 6 二銀
 ▲ 7 八金 △ 6 四歩 ▲ 5 八金 △ 6 三銀 ▲ 5 六歩 △ 4 二銀
 ▲ 2 六歩 △ 7 四歩 ▲ 6 九玉 △ 4 四歩 ▲ 6 七金右 △ 4 三銀
 ▲ 7 七角 △ 7 三桂 ▲ 3 六歩 △ 6 二玉 ▲ 8 八銀 (図1)

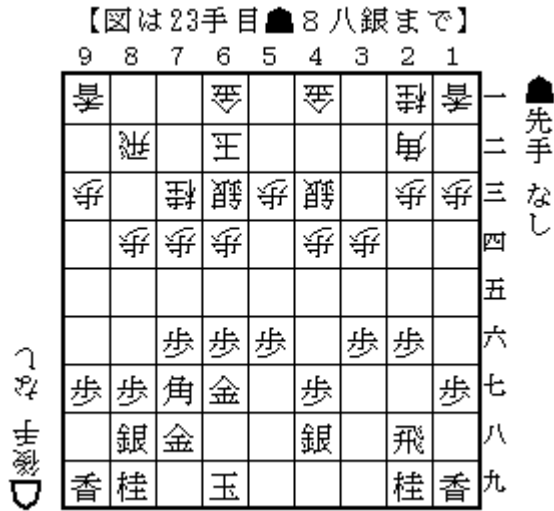


図1

*相手の天野氏の得意戦法である右玉を逆用した形となった。尤も私はこの対局の時点で、その事実は知らず、また当時の私のエース戦法も右玉だった。

△ 8 五歩 ▲ 5 七銀 △ 5 四歩 ▲ 5 九角 △ 7 二玉 ▲ 2 五歩
 △ 3 三角 ▲ 7 九玉 △ 6 二金 ▲ 4 六歩 △ 3 二金 ▲ 1 六歩
 △ 1 四歩 ▲ 7 七桂 △ 8 一飛 ▲ 2 六角 △ 4 二角 ▲ 8 九玉
 △ 3 三桂 ▲ 5 九角 △ 9 四歩 ▲ 9 六歩 △ 5 二金 ▲ 6 八銀
 △ 6 二玉 ▲ 7 九銀右 △ 5 三角 ▲ 6 八角 △ 4 二角 ▲ 2 四歩
 △ 同 歩 ▲ 同 飛 △ 2 三歩 ▲ 2 八飛 △ 8 六歩 ▲ 同 歩
 △ 同 飛 ▲ 1 五歩 △ 同 歩 ▲ 1 三歩 △ 8 一飛 (図2)

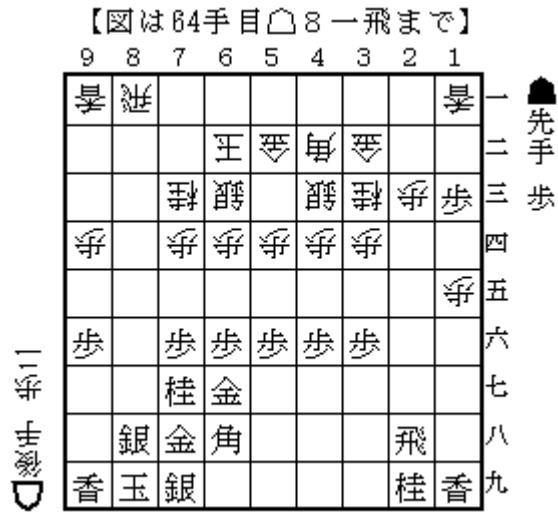


図2

*△8一飛で△1三同香は▲4五歩△2二金▲4四歩△同銀▲1四歩～▲2四歩狙い。

▲1五香 △9五歩 (図3)

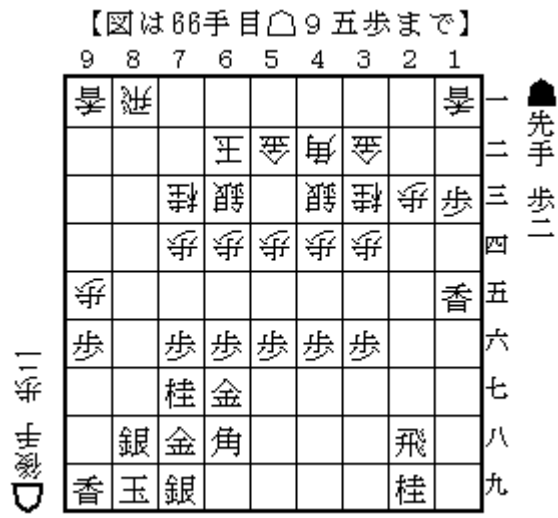


図3

*ここでは香損が確定している後手がやや苦しいと思われる。ソフトの判断も先手有利。

▲8七歩 (図4)

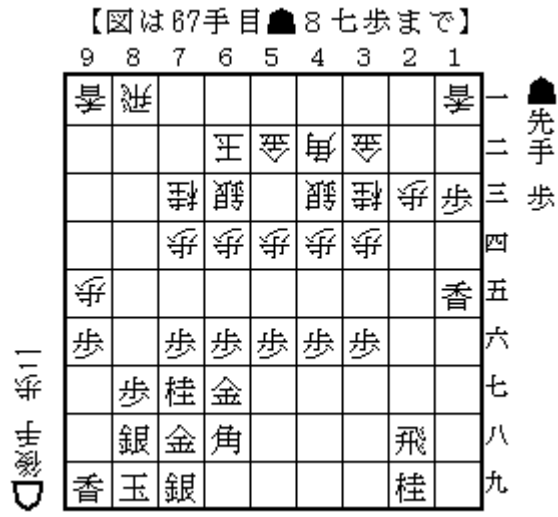


図4

*▲8七歩は疑問手。怖いのが▲9五歩と取るべき。

- ①△8七歩▲同銀△8六歩▲9六銀△9五香▲同銀△8七歩成は▲同金△同飛成▲8八香で先手勝ち。
- ②△9七歩▲同香△6五歩▲8七歩△6六歩▲同金△6五歩▲6七金引とし、△7五歩や△9七角成とするが、先手が有利を維持できていた。

△9六歩 ▲9八歩 △8五桂 ▲8六歩 △7七桂成 ▲同金寄 △8五歩
▲1二歩成 △8六歩 ▲1一と △8七桂 (図5)

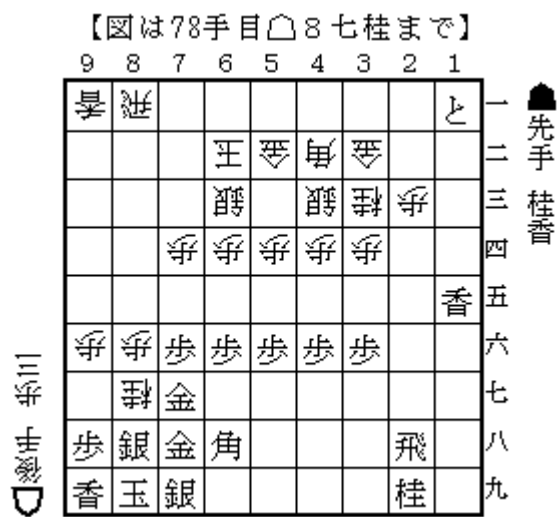


図5

*△8五桂ではソフトは△1六歩を指摘しており(▲同飛ならば△8五桂)、そちらの方が勝った。△8五歩に▲同歩は△同飛が香車当たりで後手よし。玉頭を押し込んで、ここでは難しいながら後手が食いついている。

- ▲ 8七同銀 △同歩成 ▲同金上 △6五歩 ▲8六歩 △8五歩
- ▲同歩 △6六歩 (図6)

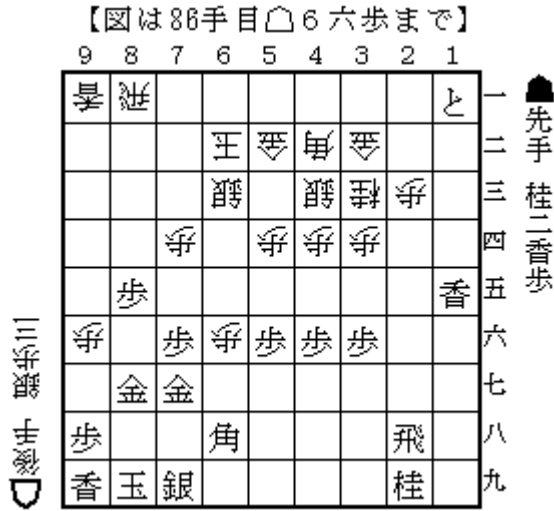


図6

*ここも迫り方はほかにもあったようだが、玉頭の攻撃がうるさく対局中には後手の私がよいと思っていた。しかし、正棋会のホームページでの野山知敬氏の解説では先手が余しているようなコメントであり、強豪を立てたようなコメントに対して納得いかなかった覚えがある。もちろんソフトの解析では後手ははっきりよい。

- ▲ 8四桂 △ 8六歩 ▲ 8八金 △ 8七銀 ▲ 6六金 △ 8八銀成
- ▲ 同銀 △ 8七金 ▲ 6四歩 △ 同銀 ▲ 6五歩 △ 7三銀
- ▲ 6四桂 △ 8四銀 ▲ 7九玉 △ 8五銀 ▲ 8七銀 △ 同歩成
- ▲ 6九玉 △ 6三銀 ▲ 5二桂成 △ 同銀左 ▲ 6四香 △ 7七と (図7)

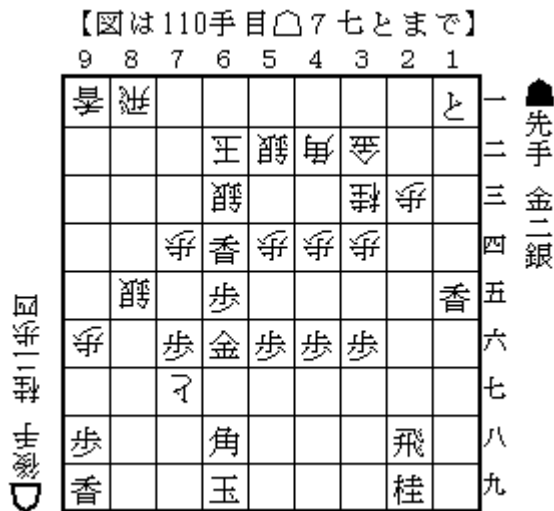


図7

*最後の△7七とが敗着の悪手となった。

△ 8 六銀 ▲ 6 三香成 △ 同銀 ▲ 6 四銀 △ 同銀 ▲ 同歩 △ 同角 ▲ 6 五銀に、

① △ 7 八と ▲ 同玉 △ 7 七銀打 ▲ 同角 △ 同銀成 ▲ 同玉 △ 5 九角

② △ 6 三香

でいずれも後手優勢だった。この時点での私の心境は「先手玉を右辺に逃がしてしまったかな…」という negative なもので、その焦りがこの手を指させたのは間違いないが、ここまで粘り強く指して逆転に至らしめたのは、やはり天野氏の強さであった。

▲ 同 角 △ 8 六銀 ▲ 5 九角 (図8)

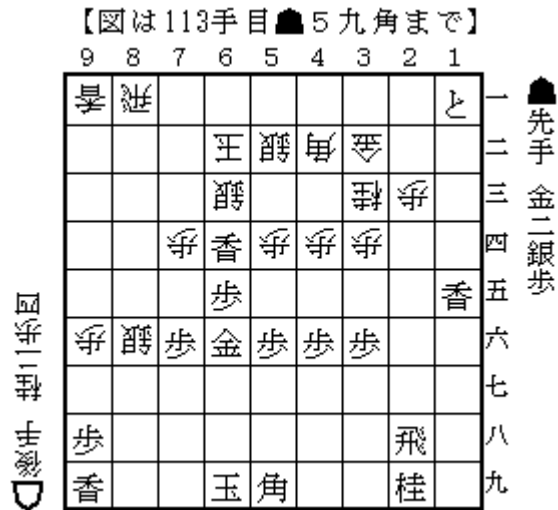
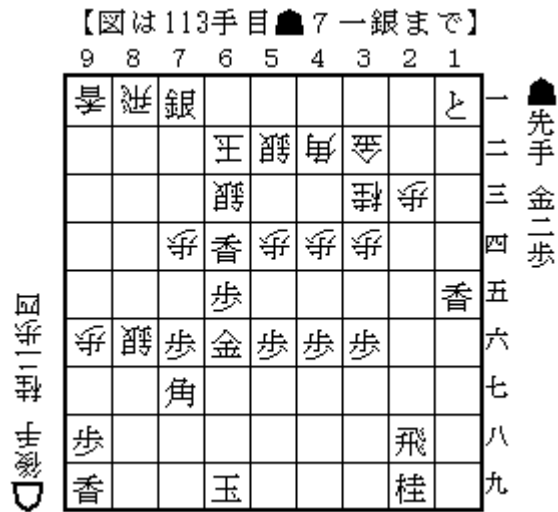


図8

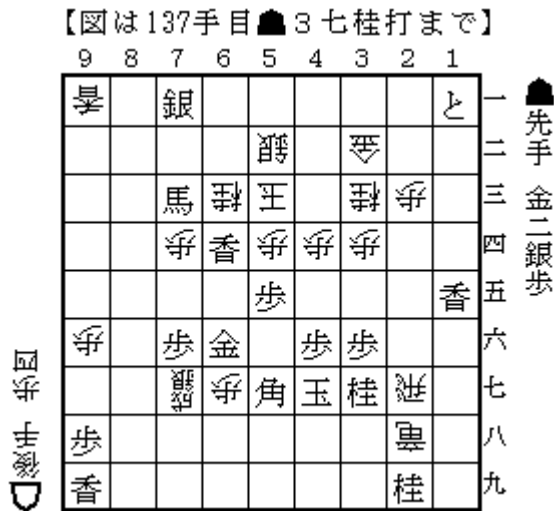
*最後の▲5九角では▲7一銀！という鬼手があった（参考図）。



参考図

*以下△7一同玉▲7三金△5一角▲8二歩で先手優勢。ソフトはこういう手を瞬時に示してくるが、人間には思いつきにくい手であり、両対局者はもちろんのこと、感想戦に参加していた当時の関西の強豪は誰一人この手を指摘した人はいなかった。

△ 6 四銀 ▲ 同 歩 △ 同 角 ▲ 5 五歩 △ 5 七香 ▲ 6 八角
 △ 6 七歩 ▲ 5 七角 △ 7 七銀成 ▲ 6 五香 △ 8 九飛成 ▲ 5 八玉 △ 7 八龍
 ▲ 4 七玉 △ 2 八龍 ▲ 6 四香 △ 6 三桂 ▲ 8 四角 △ 7 三桂
 ▲ 7 一銀 △ 5 三玉 ▲ 7 三角成 △ 2 七飛 ▲ 3 七桂打 (投了図)
 まで 137 手で先手の勝ち



投了図

*私は朝日アマ名人戦では南九州ブロックで2度決勝敗退により全国大会進出を逃しており、今回が3度目の挑戦であった。今回は準々決勝で篠田正人元アマ竜王に快勝し、勢いからいえば3度目の正直となりそうな雰囲気であったが、残念ながら地力の差で及ばなかった。この将棋以降、私が県代表に絡む位置まで勝ち上がることは全くなくなってしまった。

この将棋は今から 20 年前に指された将棋で、当時はミレニアムなどまだ玉が堅い将棋がもてはやされた時代でした。先手のような玉形はその典型でしたが、その後、人間の名人を凌駕するまで成長した AI により、堅さよりバランスが重視されるようになり、将棋の価値観も（最先端では）大きく変わってしまいました。昔の感覚で指した将棋が現在の AI にどのように評価されるのか。しかし、図 2 あたりではバランスでいえばガチガチに固めた先手陣よりもバランスのとれた後手陣の方がよいと思いきや、ソフトは先手ややよしと判断しており、何が正しいのかが混乱してしまいそうです。

はっきりいえるのは、AI は終盤の強さが人間とは比較ならないということ。例えば参考図の▲ 7 一銀などは、時間の短い将棋で瞬時に浮かぶのは橋爪さんくらいでしょう。AI が推奨するバランス重視の将棋は、このすごい終盤力・手の見え方があって初めて成立すること。我々一般アマチュアは、やはり自分が熱く将棋を指していたころの感覚で指すしかないのかもしれない。